

令和4年度第1回 高砂市文化財保存活用地域計画協議会 会議次第

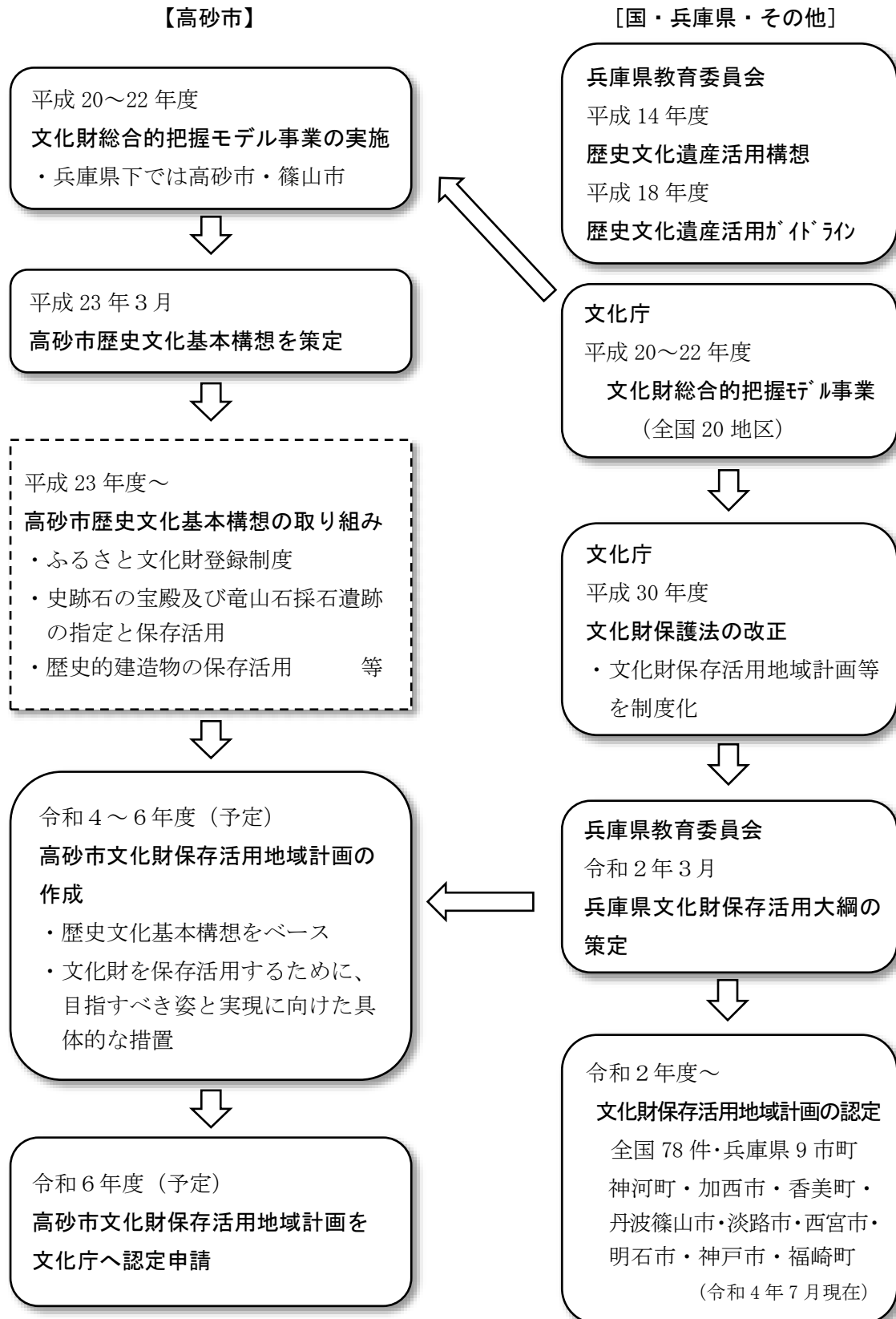
日時：令和4年8月12日(金) 13:30

場所：高砂市役所本庁舎 301 会議室

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員委嘱
4. 自己紹介
5. 会長及び副会長の互選
6. 会長あいさつ
7. 議題
 - (1) 高砂市文化財保存活用地域計画作成事業の概要
 - (2) 文化財の概要と高砂市歴史文化基本構想
 - (3) 文化財保存活用地域計画の構成と事例
 - (4) 高砂市文化財保存活用地域計画の作成にむけて
 - (5) その他
8. 閉会

1. 高砂市文化財保存活用地域計画作成事業の概要

(1) これまでの経過と予定

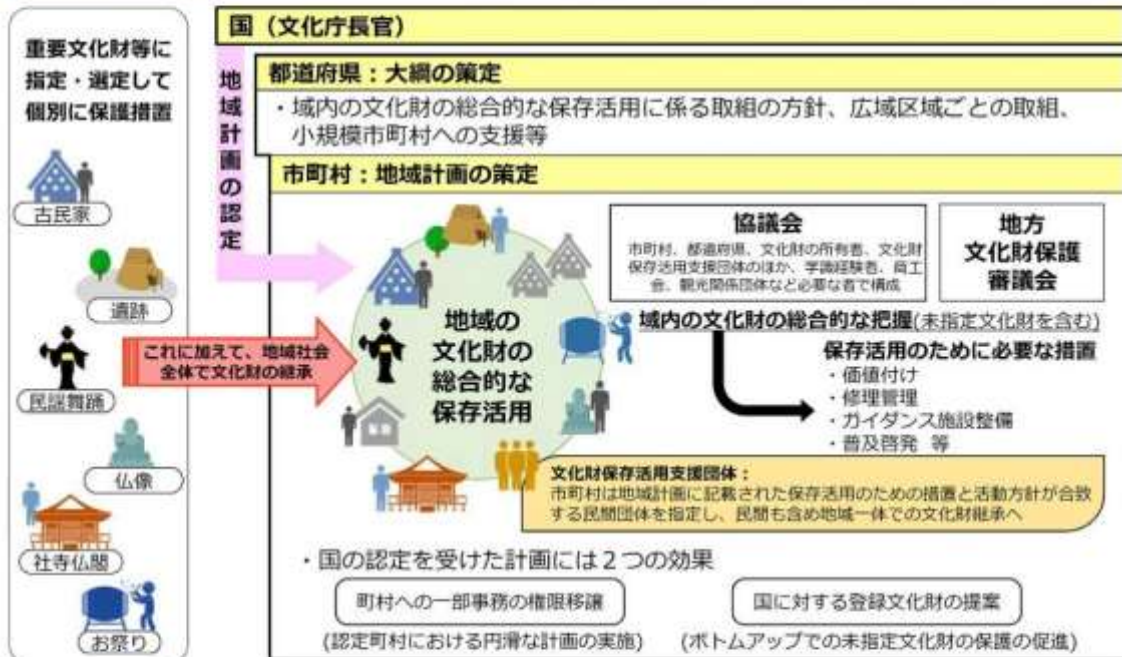


(2) 文化財保存活用地域計画とは ～背景と歴史文化基本構想～

文化財保護法改正による新たなスキーム (イメージ)

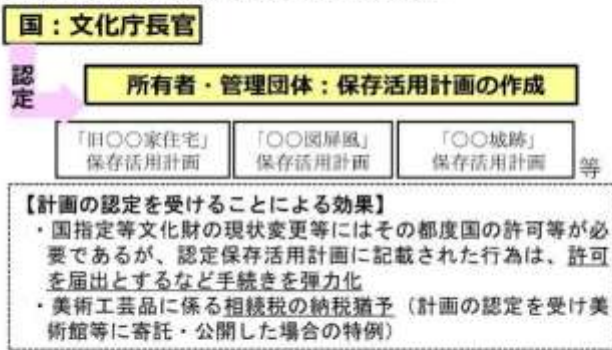
過疎化・少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が緊急の課題であり、未指定を含めた文化財をまちづくりの核とし、社会総がかりで、その継承に取り組んでいくことが必要。このため、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図る。

地域における文化財の総合的な保存・活用



個々の文化財の確実な継承に向けた保存活用制度の見直し

○個別の文化財の保存活用計画の国の認定



○所有者に代わり文化財の保存活用を担う主体の位置付け

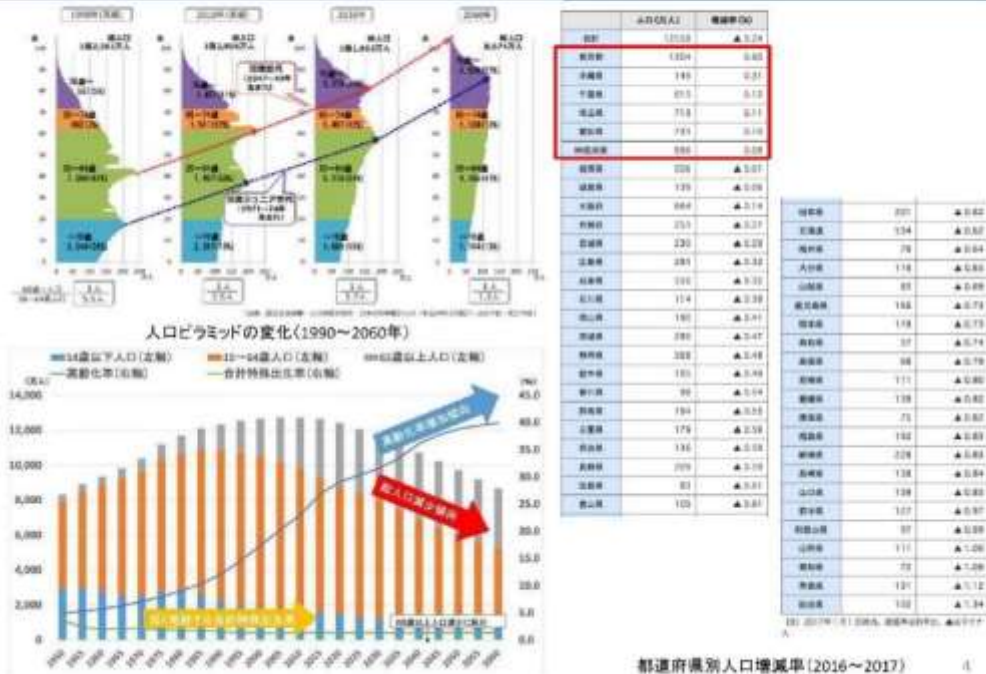
「特別な事情があるとき」に選任できるとしている管理責任者について、必要があるときに選任できるよう要件拡充する



地方文化財行政の推進力強化

- ・地方における文化財保護の所管は教育委員会だが、文化行政全体としての一体性やまちづくり等に関する事務との関連性を考慮し、**条例により、文化財保護の事務を首長が担当できるようにする**
- ・ただし、首長部局に移管する場合は、専門的・技術的判断の確保や開発行為との均衡等に対応するため、文化財保護法において任意設置となっている地方文化財保護審議会の設置を必須とする

少子高齢化と人口の減少・都市部への偏重



少子高齢化と人口減少の影響

出典：国土交通省「過疎地域等条件不利地域における集落の現状把握調査」平成28年3月

国土交通省が実施した過疎地域等（※）1,028市町村へのアンケート調査結果

（※）調査対象地域
 ・過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎地域市町村、山村振興法に基づく振興山村を有する市町村、離島振興法に基づく離島振興対策実施地域を有する市町村、平島振興法に基づく平島振興対策実施地域を有する市町村、豪雪地帯対策特別措置法に基づく特別豪雪地帯を有する市町村

多くの集落で発生している問題や現象〔複数回答〕
 （市町村担当者へのアンケート結果）

- ・住宅の荒廃（老朽家屋の増加）62.3%
- ・伝統的祭事の衰退43.2%
- ・地域の伝統的生活文化の衰退32.8%
- ・伝統芸能の衰退35.4%
- ・集落としての一体感や連帯意識の低下32.7%

集落人口に占める高齢者割合（65歳以上人口が占める割合）が50%以上の集落

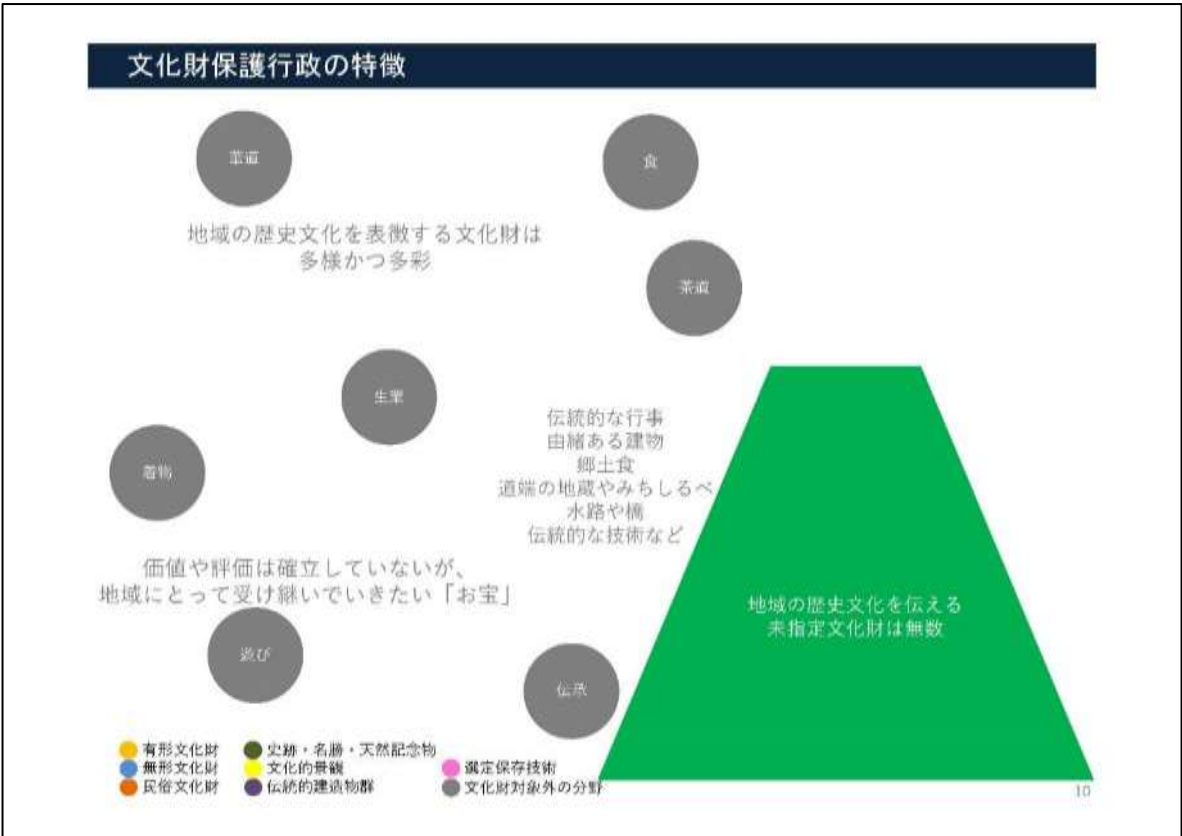
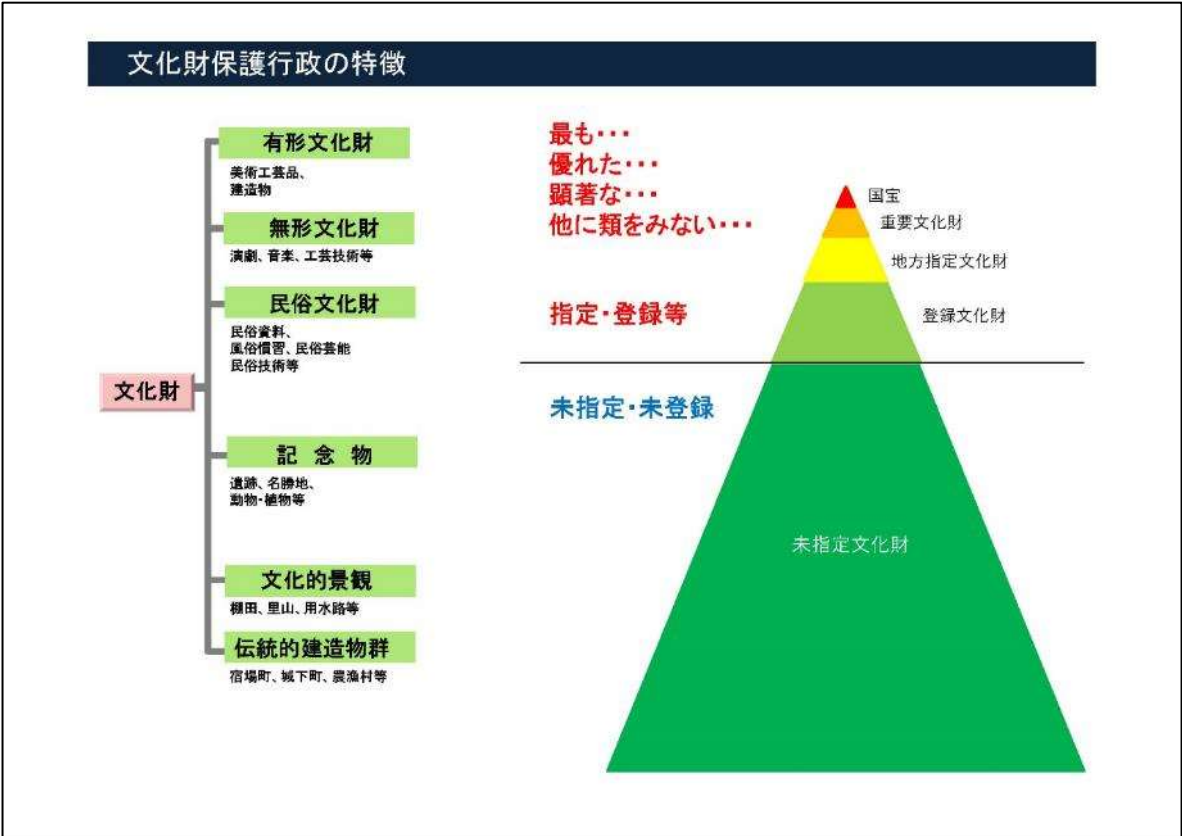
15,568集落

今後10年以内に無居住化の可能性のある集落

570集落

いずれ無居住化する可能性があるとみられる集落

3,044集落



眠っている地域の宝を拾い上げ、地域の個性を引き出す



13

文化財を取り巻く環境

社会構造（産業・コミュニティ等）や価値観の変化

- ・生活様式の変化による**伝統的な生活習慣・風習の廃れ**
- ・日常における自然環境との関係が希薄に
- ・伝統的な文化に対する**理解・興味の欠如**
- ・開発による**未指定文化財の喪失と景観の変化**
- ・首都圏への一局集中による**地方の多様な歴史・文化の衰退**

過疎化・少子高齢化による文化財保存・活用の担い手の不足

- ・重文民家の個人所有者の平均年齢は73歳前後
- ・行事・祭礼・芸能など**無形文化財の存続の危機**
- ・有形文化財においては、日常的な**維持管理機能が低下**
- ・周辺環境の継承が困難
- ・後継者の不足、産業として成立しない**伝統的技術の衰退**
- ・原材料確保の困難

人口減少による税収の低下

- ・国、地方公共団体による**支援の減少**

地域主体の文化財の掘り起こしやまちづくりへの活用気運の高まり

- 例)
- ・住民と自治体が協働して市民遺産を認定
 - ・企業やNPO等による**歴史的建造物の活用を通じた地域活性化の取組**
 - ・日本遺産認定ストーリーなどを活かした観光まちづくり

14

「歴史文化基本構想」とは

- 地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想
- 地方公共団体が文化財保護行政を進めるための基本的な構想
- 文化財を活かした地域づくりに資するものとして活用するもの

平成24年『「歴史文化基本構想」策定技術指針』

16

「文化財保存活用地域計画」とは

「歴史文化基本構想」を実効的に発展させ、法律に位置付けたもの



- 各市町村において取り組んでいく目標や取組の具体的な内容を記載した、当該市町村における文化財の保存・活用に関する基本的なアクションプラン
- 地域に所在する未指定を含めた多様な文化財を総合的に調査・把握した上で、まちづくりや観光などの他の行政分野とも連携し、総合的に文化財の保存・活用を進めていくための枠組み

平成30年12月21日 文化審議会文化財分科会企画調査会
『文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・
文化財保存活用地域計画・保存活用計画の
策定等に関する指針（案）』

文化財保存活用地域計画とは

文化財保存活用地域計画 ≡ 歴史文化基本構想
 + 具体的な事業計画（措置）
 + 計画期間
 + その他の事項

- 一定期間での更新が前提（計画期間）
 - 更新ごとに内容を充実
- 壮大な構想よりコンパクトかつ機動力・実行力ある計画に
 - 事業計画は現状ルーティンワークの“見える化”から
 - 計画期間内の方針の変更、事業計画の追加・削除も
 - 速やかな作成を

18

文化財保存活用地域計画に記載する事項

法第183条の3 第2項	文化財保存活用地域計画策定指針 (20181221指針案)	歴史文化基本構想策定指針	
基本的事項	第1号関係	当該市町村の概要	地域の歴史文化の特徴
		当該市町村の文化財の概要	
		当該市町村の歴史文化の特徴	
	第2号関係	文化財の保存・活用に関する課題	文化財の保存・活用の基本的方針 策定の目的・行政上の位置づけ
		文化財の保存・活用に関する方針	
	第3号関係	文化財の保存・活用に関する措置	新規項目
	第4号関係	文化財を把握するための調査に関する事項	文化財把握の方針
第5号関係	計画期間	新規項目	
第5号関係	文化財の保存・活用の推進体制	文化財の保存・活用を推進するための 体制整備の方針	
任意事項	関連文化財群に関する事項	関連文化財群に関する事項	
	文化財保存活用区域に関する事項	文化財保存活用区域に関する事項	
	事務処理特例	新規項目	
	その他の事項	新規項目	

文化財保存活用地域計画の二つの視点

• 文化財の総合的な理解

関連する複数の文化財を総合的にとらえることにより新たな価値を見いだす視点

- ▶ 歴史文化の特徴
- ▶ 関連文化財群の設定
- ▶ 文化財保存活用区域の設定

• 社会全体で支える文化財の保存と活用

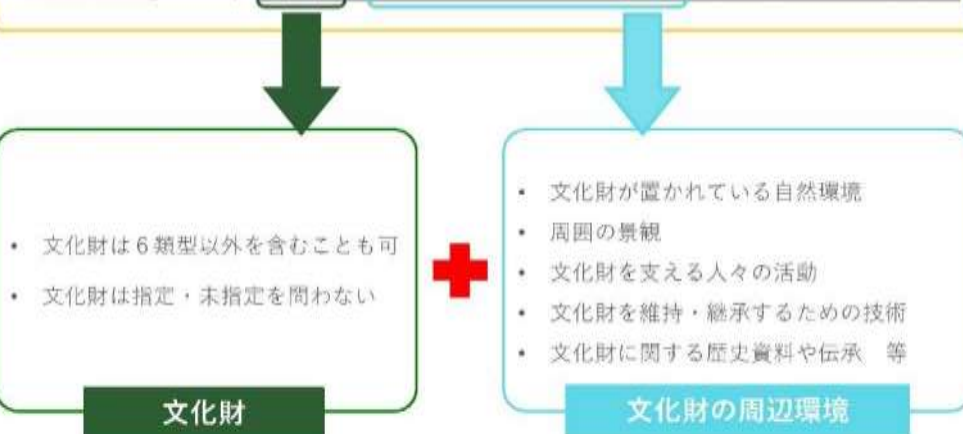
これからの文化財の保存と活用のあり方を地域社会で共有

- ▶ 文化財の保存と活用の新たなかたち
- ▶ ストーリーを生かした文化財の保存と活用
- ▶ 文化財の保存と活用の推進体制

20

歴史文化とは？（歴史文化基本構想策定指針）

「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったもの



22

(3) 高砂市文化財保存活用地域計画作成事業 事業計画

(文化庁 文化財保存活用地域計画等の策定等に関する指針より)

① 計画作成の趣旨

(ア) 概要

文化財保存活用地域計画（市町村）は、文化財保存活用大綱（都道府県）を勘案しつつ、各市町村において取り組んでいく目標や取組の具体的な内容を記載した、当該市町村における文化財の保存・活用に関する基本的なアクション・プランである。

(イ) 効果

地域計画において、文化財の保存・活用に関して当該市町村が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の実施計画を定め、これに従って計画的に取組を進めることで、継続性・一貫性のある文化財の保存・活用が一層促進される。

また、当該市町村における文化財行政の取組の方向性を計画として対外的に明示するとともに、作成した地域計画を広く周知し、民間団体等の様々な関係者のみならず地域住民の理解・協力を得ることにより、地域社会総がかりによる、より充実した文化財の保存・活用を図っていくことが可能となる。

(ウ) 位置づけ

地域計画は、地域に所在する未指定文化財を含めた多様な文化財を総合的に調査・把握した上で、まちづくりや観光などの他の行政分野とも連携し、総合的に文化財の保存・活用を進めていくための枠組みでもある。

地域計画の作成・推進を通じて、地域の多様な文化財の掘り起こしが進み、新たに見いだされた文化財の保護につながるとともに、民間団体をはじめ多様な主体の参画を得ることで、所有者や行政だけでは難しい未指定文化財を含む幅広い文化財の積極的な保存・活用の推進が期待される。

また、法定計画として市町村の行政体系に位置付けることで、文化財の保存・活用の必要性・重要性が増すとともに、様々な関係者の参画を得ながら計画の検討を行うことで、計画の作成過程自体も“見える化”し、文化財の保存・活用に対する地域住民の関心や理解の促進、さらには地域のアイデンティティの醸成が期待される。

② 地域計画の記載事項

(ア) 基本的内容

- 当該市町村の概要
- 当該市町村の文化財の概要
- 当該市町村の歴史文化の特徴
- 文化財の保存・活用に関する課題
- 文化財の保存・活用に関する方針
- 文化財の保存・活用に関する措置
- 文化財を把握するための調査に関する事項

- 計画期間
- 文化財の保存・活用の推進体制等

(イ) 必要に応じて掲げることのできる内容

- 関連文化財群に関する事項
- 文化財保存活用区域に関する事項
- 地域計画の認定を受けた場合の事務処理特例の適用を希望する事務の内容
- その他の事項

③ 作成・認定の手続き

(ア) 情報収集

作成に向けた準備として、過去からの調査や市町村史等の文献、関連する行政計画や条例、規則などの基本情報を収集・整理する。

(イ) 体制

地域計画の作成のための協議会を設置する。

協議会の構成員は、市町村・都道府県、支援団体が基本的な構成員であり、このほか必要に応じて、文化財の所有者・学識経験者・商工関係団体・観光関係団体その他の市町村が必要と認める者を構成員とすることができる

(ウ) 意見聴取

地域計画の素案を作成するとともに、協議会での意見を計画に反映させる。

また、法定の手続として、あらかじめ、地方文化財保護審議会の意見を聴くこと及び公聴会やパブリックコメントの実施など住民の意見を反映させるよう努めることが必要なため、適切なタイミングでこれらを実施する。

(エ) 計画の認定

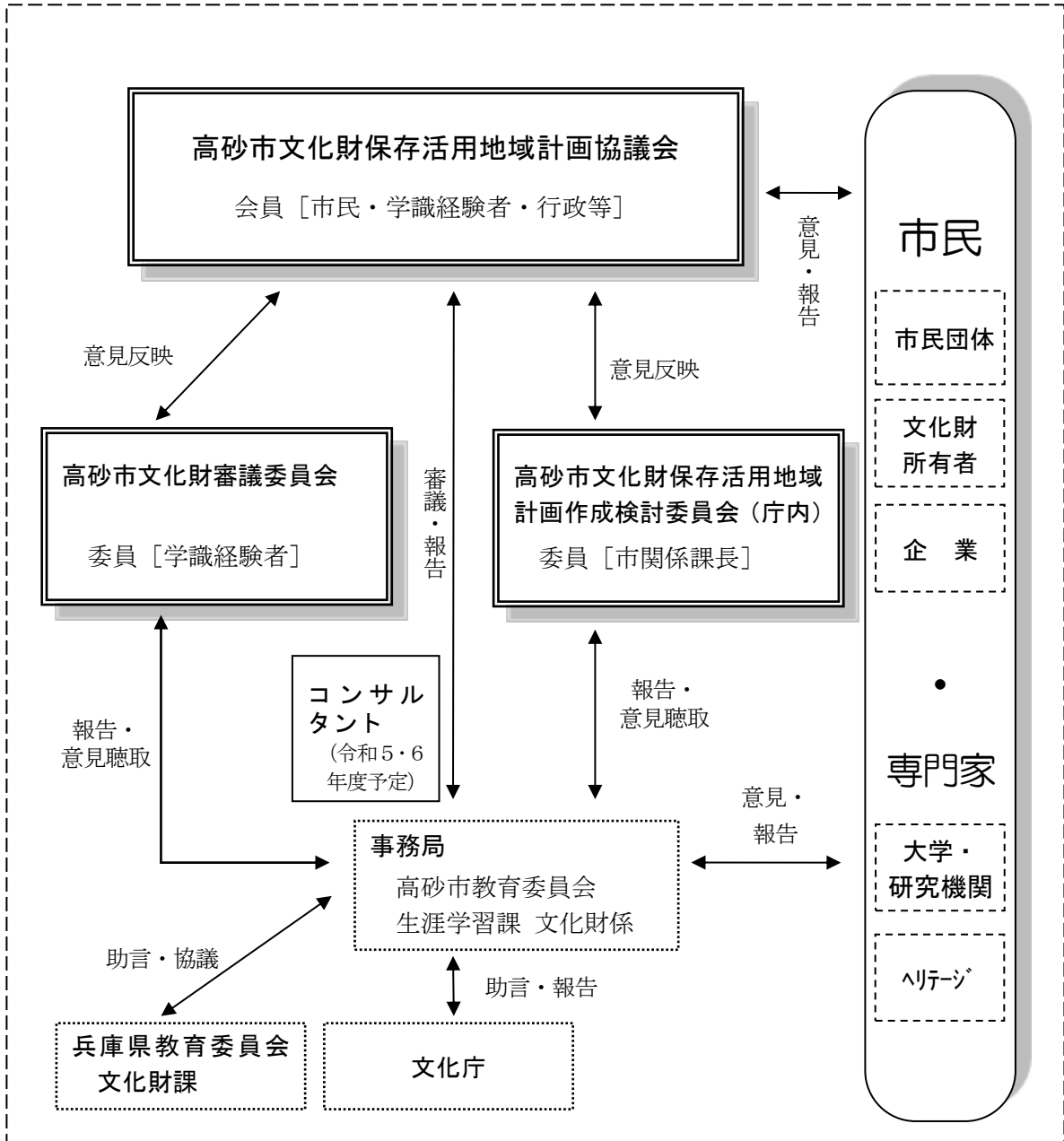
作成した地域計画の認定申請は、都道府県を経由して、文化庁長官へ別途定める申請書を提出して行う。

④ 認定基準

- 域内の文化財の状況に応じて、計画期間内において実施すべき措置が盛り込まれていること
- それらが文化財の保存・活用に寄与するものであることが合理的に説明されていること
- 措置の実施主体が特定されているか、特定される見込みが高いこと措置の実施スケジュールが明確であること
- 認定を受けた場合の事務処理の特例の適用を希望する場合には、当該事務の実施に必要な人員の配置など適切な実施体制が確保されていること
- 大綱が定められている場合、地域計画の内容が大綱と整合性のとれたものとなっていること

(4) 実施体制

高砂市文化財保存活用地域計画協議会を中心に、各行政機関と、市民等による全体的な構成をもとに、事業を実施する。



(5) スケジュール

	令和4年度(市単費)				令和5年度(国補助)				令和6年度(国補助)				令和7年度以降
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
文化財保存活用地域計画協議会		7/1 設置 8/12 第1回概要説明		1月 第2回 歴史構想の検証		第3回 歴史文化・課題	第4回 目標・方針	第5回 方向性	第6回 実施計画	第7回 計画案			事業の実施と進捗管理
文化財保存活用地域計画作成検討委員会(庁内委員会)	5/1 設置	7/29 第1回	第2回		第3回		第4回		第5回				
文化財調査		(既存データの整理)	→		建築まちなみ調査 各文化財調査		→						
地域計画作成		歴史文構想の検証	計画素案作成	→	文化財概要 まとめ	目標・ 方針づくり	具体 方向性	実施計画 調整	計画案 作成				
文化庁手続き			補助金手続き		補助事業実施			→	補助事業 実施	認定申請	認定		
コンサル委託	-	-	-	-	プロポーザル契約 基礎データの収集	→	計画作成 の支援			→			
報告・情報共有	4/20 議会委員会 スケジュール 4/28 定例教委報告 庁内委設置 5/20 議会委員会 協議会要綱案・名簿案 5/26 定例教委 協議会設置 6/23 定例教委 協議会会員委嘱	9月 議会報告 第1回協議会		1月 議会報告 第2回協議会		議会報告		議会報告		議会報告 パブコメ		ホームページ 冊子刊行 シンポジウム	

2. 文化財の概要

(1) 文化財の主な調査状況

種別	文化財名 (ゴシック体は歴史文化 基本構想以後の動き)	過去の調査実績
史跡・ 埋蔵文化財	考古	高砂市史編さん事業で市内の遺跡と遺物を悉皆調査し、平成28年刊行の『高砂市史』第7巻で、旧石器～奈良時代以降の計67の遺跡と遺物を報告。平成23年刊行の『高砂市史』第1巻で原始・古代の通史について論述される。
	石の宝殿及び 竜山石採石遺跡 (国指定)	古代につくられた石造物と、1700年続く竜山石採石の生産遺跡。平成16年度に竜山採石遺跡、平成22年に石の宝殿の調査報告書を刊行。平成26年に国指定。保存活用計画・整備基本計画にもとづき、整備事業を実施中(平成30～令和6年度予定)。
	史跡・景観	平成20～22年度の文化財総合的把握モデル事業の文化財調査で実施。竜山石切場の、航空レーザー計測や周辺景観の調査・アンケートを実施した。平成23年刊行の文化財調査報告書で報告。
	岩石	平成20～22年度の文化財総合的把握モデル事業の文化財調査で実施。竜山石の岩石学的特徴を調査し、平成23年刊行の文化財調査報告書で報告。
	高砂堀川湊及び 工楽松右衛門旧宅 (県指定)	江戸時代に加古川舟運と瀬戸海運で繁栄した高砂湊の船着き場等の港湾遺跡と工楽松右衛門の居宅。平成28～29年度に南堀川跡発掘調査を実施し報告書を刊行。平成31年3月に県指定。南堀川跡の範囲確認調査を実施中(令和4年度まで)。
	日笠山貝塚 (市ふるさと文化財)	縄文時代の瀬戸内海沿岸で形成された数少ない貝塚の一つ。昭和37～41年度に発掘調査を実施。平成24年に市ふるさと文化財に登録。
	塩田遺跡	縄文時代から中世にかけての複合遺跡。 昭和43～52年度実施の発掘調査で古代郡衙の可能性はある。
	時光寺古墳	平成16～19年度に竜山石製石棺を埋葬する古墳時代中期の円墳の発掘調査を実施。平成21年に調査報告書を刊行。
	竜山古墳群	昭和51年度に5号墳を発掘調査。平成11～16年度に測量調査と一部発掘調査を実施。古代の石材産出に携わった首長墓。平成23年に調査報告書を刊行。
	阿弥陀古墳群	昭和37年度に発掘調査。平成16・18・23年度に測量・発掘調査を実施。古代大国里に関わる首長墓群。平成24年に調査報告書を刊行。
遺跡地図	平成元～3年度に市内遺跡詳細分布調査を実施し遺跡地図を刊行。現在97箇所(箇所)の遺跡がある。	

種 別	文化財名 (ゴシック体は歴史文化 基本構想以後の動き)	過 去 の 調 査 実 績
石 造 物	石造遺物	高砂市史編さん事業で市内の石造遺物を悉皆調査し、平成28年刊行の『高砂市史』第7巻で、中世385件、近世496件を報告。石製品の分布や石工勢力圏域等もまとめられ、前代未聞の石造調査成果の報告。
	墓石	平成20～22年度の文化財総合的把握モデル事業の文化財調査で実施。市内86カ所の墓地にあるすべての墓石32,115件を悉皆調査した。平成23年刊行の文化財調査報告書で報告。
	石仏	平成9・10年度に市内の中世・近世石仏の分布調査を実施。近世石仏は、お地藏さんとして民間信仰の対象として、市内全域に祭礼活動が展開。
	道標	平成9・10年度に市内に残る道標すべてを調査し、紹介冊子を刊行した。
	阿弥陀共同墓地 石造五輪塔 (県指定)	昭和36年に高砂市で初めて県指定。鎌倉時代中期の文保2年(1318)に造立。兵庫県内では2番目に古い完存の五輪塔。令和元年度に保存修理を実施し令和4年に報告書を刊行。
建 造 物	建築	高砂市史編さん事業で建築物を悉皆調査し、平成28年刊行の『高砂市史』第7巻で、寺院12件・神社4件・民家1件・近代建築6件の計23件を報告。江戸時代の優れた古建築が詳細に調査された。
	建造物・まちなみ	平成20～22年度の文化財総合的把握モデル事業文化財調査で実施。市内全地区の歴史的建造物を悉皆調査。古民家は、高砂地区257件・伊保地区71件・曾根地区70件ほか計635件を確認した。近代化遺産49件、社寺127件を含め、平成23年刊行の文化財調査報告書で報告。
	民家	平成10年度に5件の民家を対象とした建造物調査を実施し報告書を刊行。代表的な近世民家のみ調査で、社寺・近代以降建造物は未調査。
	旧入江家住宅 (県指定)	平成14～18年度に近世庄屋層民家である旧入江家住宅の総合調査を実施し、平成19年に、建造物の詳細調査の成果とともに、民具・古文書等の総合調査報告書を刊行。
美術工芸	美術	高砂市史編さん事業で指定物件を中心に調査し、平成28年刊行の『高砂市史』第7巻で、絵画28件・絵馬12件・彫刻工芸品8件の計48件を報告。
古 文 書	古文書	高砂市史編さん事業で市内の約80カ所に残る古文書を悉皆調査し、各家の文書目録や平成17年刊行の『高砂市史』第5巻で翻刻文を報告。平成22年刊行の『高砂市史』第2巻等で論述。 市史編さん事業で収集した未整理の古文書調査を継続中。
	工楽家文書	平成10～14年、28～30年度に、工楽家所有の古文書約1万2千件に及ぶ詳細調査を実施し31年に調査報告書と目録を刊行。令和4年度以降、追加文書の調査を継続中。

種 別	文化財名 (ゴシック体は歴史文化 基本構想以後の動き)	過 去 の 調 査 実 績
古 文 書	河野家文書 (竜山石問屋)	平成20～22年度の文化財総合的把握モデル事業文化財調査で実施。 近代に竜山石の問屋をつとめた河野家の文書を調査し、平成23年刊 行の文化財調査報告書で報告。
民 俗	曾根天満宮の 一ツ物 (県指定)	中世から伝承された稚児の祭礼「一ツ物」は、現在兵庫県内を中心 にわずかしか残っていない。平成17年度に県教育委員会が調査を実 施。平成21年に県指定。
	民俗	平成20～22年度の文化財総合的把握モデル事業の文化財調査で実 施。地域に特徴的な祭礼・七夕・盆踊り・地藏盆をテーマに調査しま とめ、平成23年刊行の文化財調査報告書で報告。
	高砂町の民俗	平成16年度に神戸女子大学が高砂町地区の民俗について調査を実 施。その他の地区の民俗調査は未実施。
	石工技術と用具	近世以降の石工技術を伝承する古老石工の聞き取り調査等の民俗 調査を実施。伝世した石工用具の調査も実施。
総合調査	市史編さん事業 (再掲)	平成11年度から27年度までの17か年度にわたる調査・研究を経て、 『高砂市史』全7巻を刊行した。原始から近現代の通史が詳述され 、文献・石造遺物・建築・美術等の各分野の文化財調査を総合的に実 施した。

(2) 指定文化財等一覧

令和4年4月1日現在

<国指定文化財>

No.	種別	名 称	指定年	管 理 者	所 在 地
1	絵画	絹本着色五仏尊像	昭和25年	十輪寺	高砂町横町
2	史跡	石の宝殿及び竜山石採石遺跡	平成26年	高砂市	阿弥陀町生石他

<国登録文化財>

No.	種別	名 称	登録年月日	管 理 者	所 在 地
1	建造物	旧朝日町浄水場配水塔	平成15年	高砂市	高砂町朝日町
2		土田家住宅旧魚橋郵便局舎・離れ・門及び塀	平成17年	個人	阿弥陀町魚橋
3		花井家住宅主屋	平成25年	個人	高砂町高瀬町
4		松宗蔵	平成25年	個人	高砂町東浜町
5		大崎家住宅主屋	平成25年	個人	高砂町藍屋町
6		旧高砂銀行本店（高砂商工会議所会館）	平成29年	高砂商工会議所	高砂町北本町
7		旧高砂通運本社屋	平成29年	高砂通運株式会社	高砂町鍛冶屋町
8		旧高砂消防会館・南本町巡查派出所	平成29年	高砂市	高砂町南本町

<県指定文化財>

No.	種別	名 称	指定年月日	管 理 者	所 在 地
1	建造物	石造五輪塔(阿弥陀共同墓地内)	昭和36年	阿弥陀町	阿弥陀町阿弥陀
2		十輪寺本堂	昭和54年	十輪寺	高砂町横町
3		石造宝篋印塔(時光寺境内)	昭和62年	時光寺	時光寺町
4		旧入江家住宅	平成14年	高砂市	曾根町
5	絵 画	絹本着色阿弥陀来迎図	昭和54年	十輪寺	高砂町横町
6		真浄寺障壁画	昭和60年	真浄寺	伊保
7		板絵著色神馬図(曾我蕭白筆)	平成26年	曾根天満宮(加茂神社)	曾根町
8		板絵著色牽牛図(曾我蕭白筆)	平成26年	曾根天満宮	曾根町
9	考 古	天磐舟(家形石棺蓋石)	昭和47年	高砂市	阿弥陀町生石
10	彫 刻	木造阿弥陀如来立像	昭和58年	利生寺	荒井町御旅
11	民 俗	曾根天満宮の一寸物	平成21年	曾根天満宮一寸物神事保存会	曾根町
12	史 跡	高砂堀川湊及び工楽松右衛門旧宅	平成31年	高砂市	高砂町今津町

<市指定文化財>

No.	種別	名 称	指定年月日	管 理 者	所 在 地
1	建造物	旧岸本家織部灯籠	昭和 42 年	高砂市	高砂町横町
2		旧入江家織部灯籠	昭和 43 年	高砂市	曾根町
3		延命寺織部灯籠	昭和 46 年	延命寺	高砂町横町
4		黒岩十三仏(磨崖仏)	昭和 46 年	住吉神社	曾根町
5		石造九層塔(時光寺境内)	昭和 46 年	時光寺	時光寺町
6		石造五輪塔(大日寺境内)	昭和 46 年	大日寺	阿弥陀町阿弥陀
7		石造十三層塔(大福寺境内)	昭和 46 年	大福寺	荒井町小松原
8		庫裏・大玄関・小玄関	昭和 57 年	十輪寺	高砂町横町
9		石灯籠	昭和 59 年	米田天神社	米田町米田
10		美雄弥神社	昭和 63 年	荒井神社	荒井町千鳥
11		十輪寺 山門	平成 11 年	十輪寺	高砂町横町
12		曾根天満宮 石橋	平成 12 年	曾根天満宮	曾根町
13		時光寺山門	平成 16 年	時光寺	時光寺町
14		申義堂	平成 23 年	高砂市	高砂町
15		曾根天満宮随神門	平成 24 年	曾根天満宮	曾根町
16	絵 画	絵馬「武将騎馬図」(森周峯筆)	昭和 47 年	高砂神社	高砂町東宮町
17		絵馬「放牛図」(橋本関雪筆)	昭和 54 年	曾根天満宮	曾根町
18		絹本著色阿弥陀来迎図	昭和 56 年	真浄寺	伊保
19		寒山拾得・仙人之図(曾我蕭白筆)	昭和 57 年	利生寺	荒井町御旅
20		絹本著色不動明王二童子像	昭和 58 年	十輪寺	高砂町横町
21		絵馬「三十六歌仙」	昭和 59 年	米田天神社	米田町米田
22		絹本著色観経変相図	昭和 62 年	時光寺	時光寺町
23		「楼閣山水図」襖押絵貼図 4 面、 「人物図」襖押絵貼図 4 面(曾我蕭白筆)	平成 2 年	時光寺	時光寺町
24		絵馬「高砂神社神事の図」	平成 10 年	高砂神社	高砂町東宮町
25		絵馬「祭礼の図」	平成 10 年	高砂神社	高砂町東宮町
26		曾根天満宮 幣殿天井絵	平成 13 年	曾根天満宮	曾根町
27		法然上人像(宝瓶の御影) 附 法然上人像(宝瓶の御影)	令和元年	十輪寺	高砂町横町
28	彫 刻	木造阿弥陀如来立像	平成 16 年	観音寺	荒井町中町
29	工芸品	石仏(大日寺境内)	昭和 46 年	大日寺	阿弥陀町阿弥陀
30		鱈口	昭和 59 年	米田神宮寺	米田町米田

No.	種別	名 称	指定年月日	管 理 者	所 在 地
31	書 跡	貝多羅葉	昭和 60 年	善立寺	高砂町横町
32		鐵眼版・大藏經	昭和 62 年	真浄寺	伊保
33		貝多羅葉	平成 3 年	真浄寺	伊保
34		聖徳太子伝記	平成 4 年	真浄寺	伊保
35	考 古	三角縁五神四獣鏡	昭和 55 年	蓮教寺	北浜町牛谷
36		竜山 5 号墳出土品	平成 10 年	高砂市	阿弥陀町生石
37		塩田遺跡出土墨書土器他	平成 10 年	高砂市	阿弥陀町生石
38	歴 史	算額	昭和 52 年	生石神社	阿弥陀町生石
39	資 料	別所重棟制札	平成 22 年	曾根天満宮	曾根町
40	民 俗	荒井神社仁輪加太鼓	平成 22 年	仁輪加保存会	荒井町千鳥
41		高砂神社秋季例大祭船渡御	令和 2 年	高砂神社秋祭り保存会	高砂町
42	史 跡	藤の井	平成 7 年	西浜自治会	北浜町西浜

<ふるさと文化財>

No.	種別	名 称	登録年月日	申 請 者	所 在 地
1	建造物	観月碑	平成 24 年	米田自治会	米田町米田
2		弥兵衛塔	平成 24 年	米田自治会	米田町米田
3		網堂の石棺仏	平成 25 年	伊保東部自治会	伊保東
4		石造地藏菩薩坐像（川地藏）	平成 27 年	藍屋町自治会	高砂町藍屋町
5	民 俗	阿弥陀音頭	平成 25 年	阿弥陀音頭の 保存会	阿弥陀町
6	史 跡	渚の井	平成 23 年	伊保中部自治会	伊保
7		竜ヶ鼻	平成 24 年	高砂市	伊保東
8		日笠山貝塚	平成 24 年	高砂市	曾根町
9		金時井顕彰碑	平成 26 年	伊保崎水利組合	伊保東
10		経政神社	平成 26 年	長尾自治会	阿弥陀町長尾
11		梅の井	令和 3 年	梅井自治会	梅井



国：石の宝殿及び竜山石採石遺跡



国登：旧朝日町浄水場配水塔



国登：土田家住宅旧魚橋郵便局舎



国：絹本着色五仏尊像



国登：花井家住宅主屋



国登：旧高砂銀行本店



県：十輪寺本堂



県：旧入江家住宅



県：木造阿弥陀如来立像



県：天磐舟(家形石棺蓋石)



県：高砂堀川湊及び工楽松右衛門旧宅



県：石造五輪塔



県：石造宝篋印塔



県：曾根天満宮の一寸物



県：板絵著色神馬図



市：旧岸本家織部灯笼



市：黒岩十三仏



市：曾根天満宮石橋



市：申義堂



市：絵馬「三十六歌仙」



市：法然上人像



市：三角縁五神四獣鏡



市：荒井神社仁輪加太鼓



市：高砂神社秋季例大祭船渡御



ふ：弥兵衛塔



ふ：観月碑



ふ：網堂の石棺仏



ふ：川地藏



ふ：竜ヶ鼻



ふ：日笠山貝塚



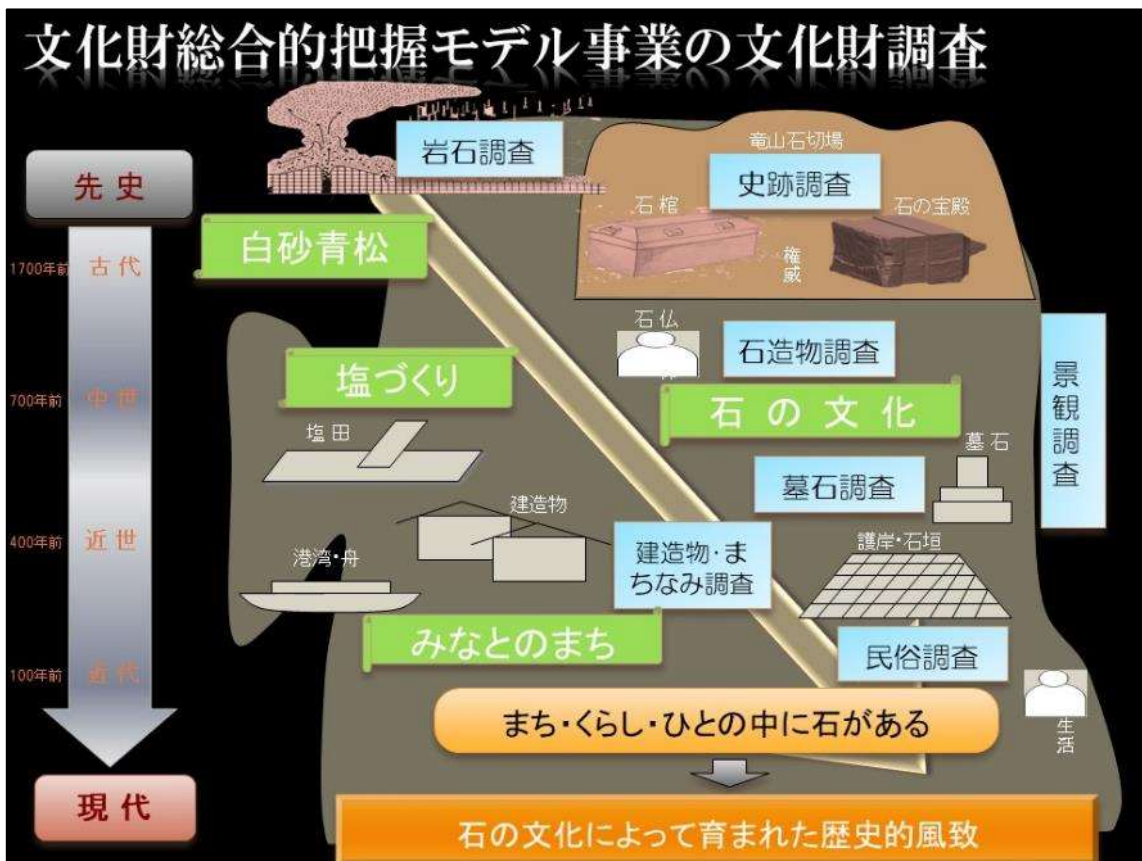
ふ：梅の井

3. 高砂市歴史文化基本構想（平成 23 年 3 月策定）

高砂市歴史文化基本構想について

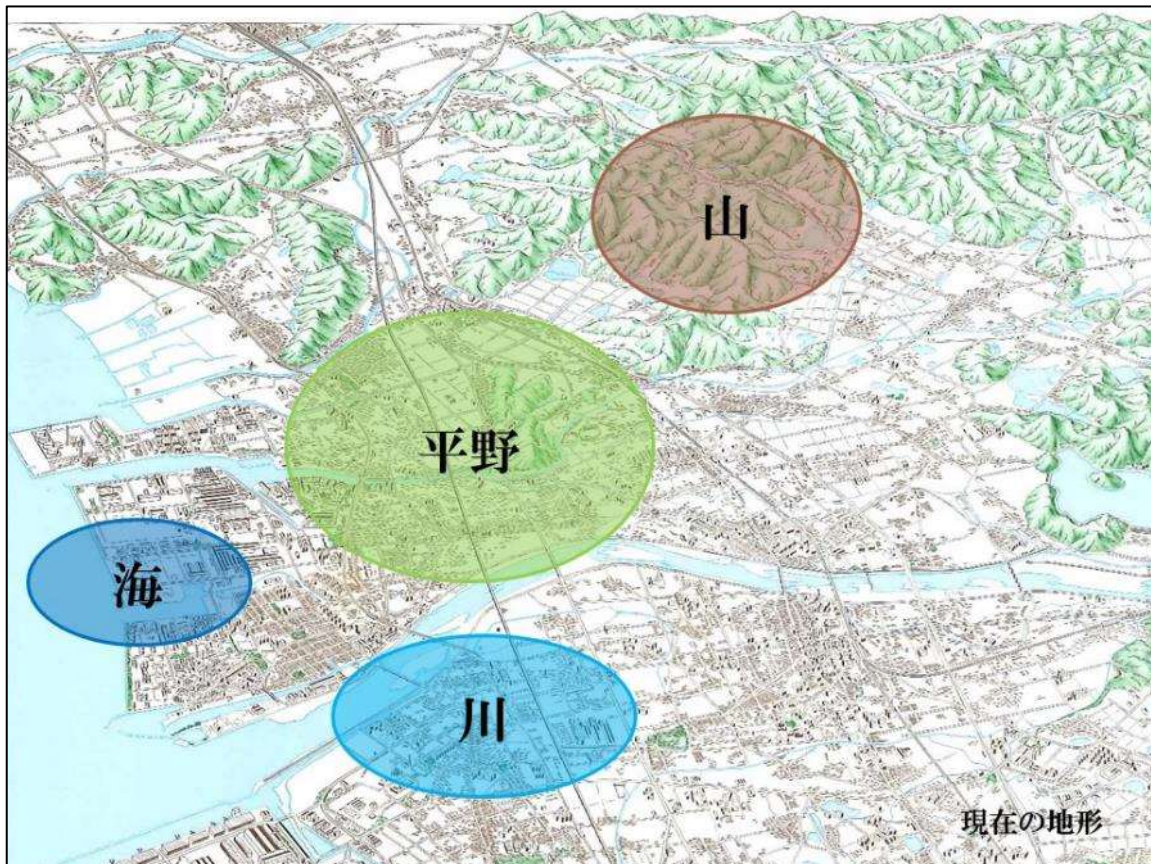
1. 高砂市歴史文化基本構想の目次

はじめに	1	
1. 高砂市歴史文化基本構想について	3	
(1) 考え方の背景		
(2) 計画の位置づけ		
(3) 構想の期間、見直し		
2. 高砂市のあゆみ	5	
(1) 高砂市の位置、地勢		
(2) 高砂市の歴史(通史)		
(3) 高砂市の歴史文化の特徴		
3. 高砂市歴史文化基本構想の基本方針	27	
(1) 高砂市の将来目標像と歴史文化基本構想の基本理念		
(2) 歴史文化の保存活用に向けた基本的方策		
4. 高砂市の歴史文化を見直す効果的な視点(テーマ)	30	
(1) 高砂市の歴史文化を見直すテーマと関連文化財群		
(2) 4つのテーマからみた高砂市の歴史文化のストーリー		
5. 関連文化財群の保存活用区域	49	
6. 関連文化財群の保存活用	52	
(1) 保存の基本的な考え方		
(2) 活用の基本的な考え方		
(3) 関連文化財群の保存活用方策		
7. 高砂市歴史文化基本構想の実現に向けた進め方	62	
(1) 基本的な考え方		
(2) ひとつづくり		
(3) まちづくり		
(4) 構想推進の体制づくり		
(5) 実現工程と導入事業		
「提言」～高砂市歴史文化基本構想の実現に向けて～	83	



■文化財調査の概要

分野	調査対象	調査体制
史跡・景観調査	石の文化に関する史跡	兵庫県立考古博物館・大手前大学史学研究所・京都府立大学大学院
建造物・まちなみ調査	歴史的建造物 (民家・社寺)	ひょうごヘリテージ機構H ² O東播
墓石調査	近世・近代の墓石 (寺院・共同墓地)	近世墓研究会・竜山石文化会・高砂歴史が伴クラブ
石造物調査	中世から近世の石造物	石造物研究者（市史編さん事業と連携）
文献調査	古文書・文書	高砂古文書の会・市史編さん課
岩石調査	竜山石の分析	兵庫県立人と自然の博物館
民俗調査	祭礼・年中行事・風俗習慣	民俗研究者



竜山石の文化



竜山石切場



肥料問屋



高砂堀川



石の宝殿



近世城郭の石垣
(明石城)



船渡御神事



土塀と石垣

みなとのまち

白砂青松



白島公園の松並木と
高砂相生の松



松林公園と曾根の松



入浜式塩田(昭和戦前)



流化式塩田
(昭和戦後)



現代の塩田跡地

塩づくり

4-2. 高砂市の歴史文化のテーマ

高砂の個性的な地勢:やま(竜山)、うみ(播磨灘)、かわ(加古川他)が生み出した関連文化財群
➡ やまの資源(竜山石の文化)、かわの資源(みなとのまち)、うみの資源(白砂青松・塩づくり)



テーマに沿って歴史文化を辿ることで…

- 高砂の個性的な自然や地勢、文化交流拠点であった歴史的役割を再確認
- 市民が高砂に誇りを見だし、高砂の将来を肯定的に考えるための視点をもつことができる

4-3. 歴史文化基本構想の基本的な考え方

<基本方針>

市民が高砂市の歴史文化を大切に受け継ぎ、
地域に誇りを持つ社会を目指す。



キーワード

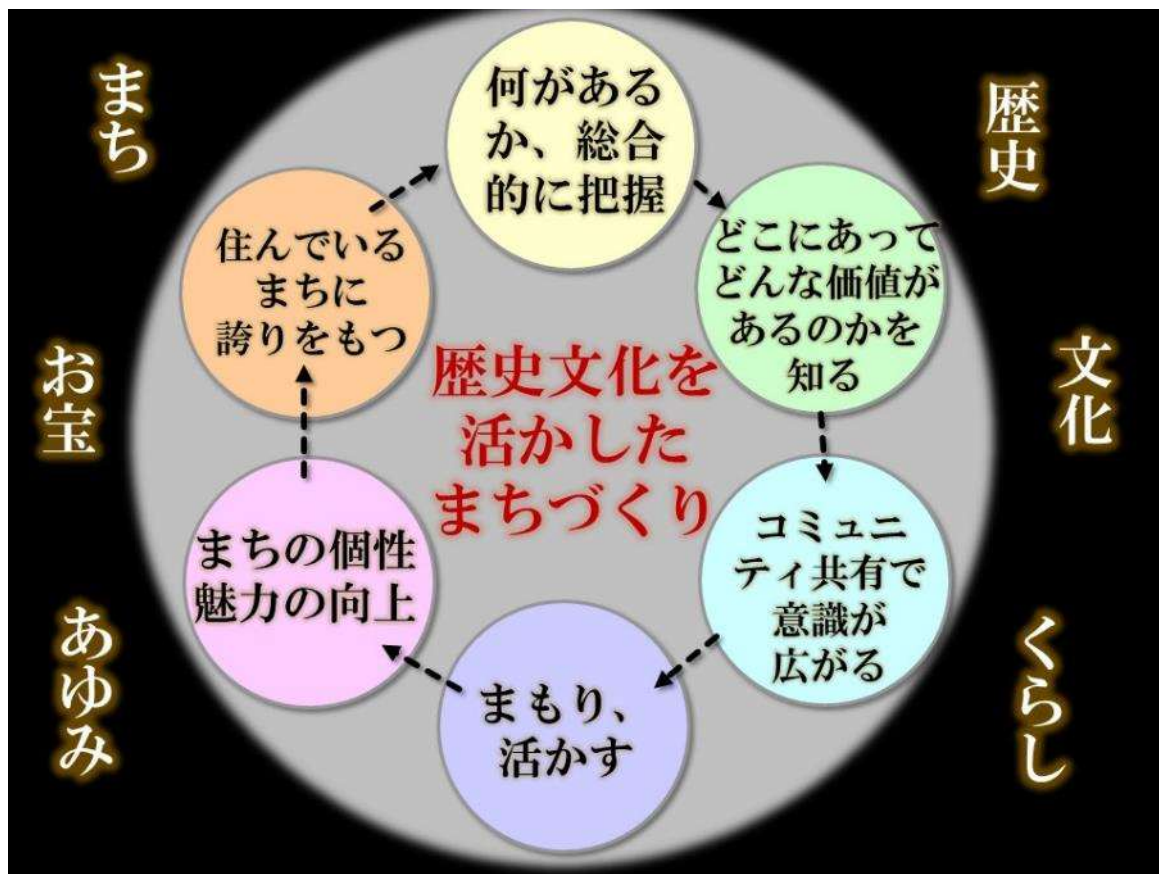
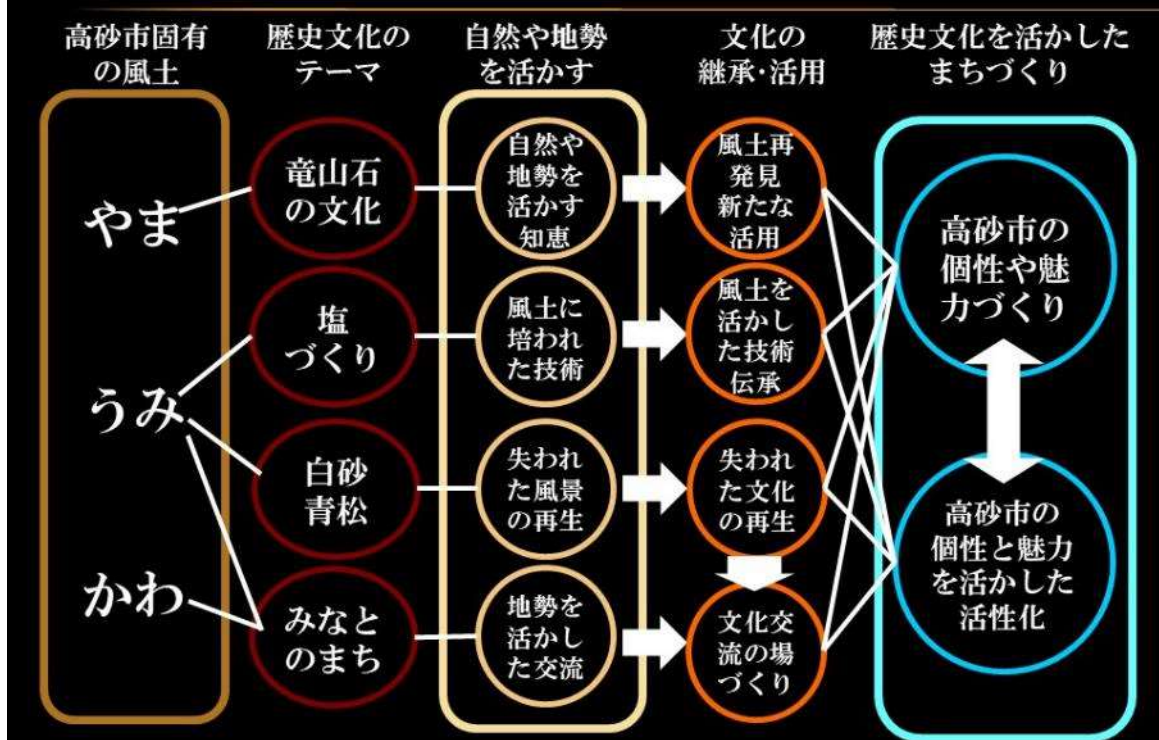
顕在化と再生

ひとづくりとまちづくり



高砂らしさを次の世代へ継承し、新たな地域づくり・地域文化の創造へ

歴史文化のテーマと活用方針



4-4. 歴史文化資源の担い手育成

- 全市的な広がりを持つ資源を発掘・活用していく「テーマ型」の活動と、旧市街地を対象としてまちづくりの中で保存活用を行う「地縁型」の活動が連携し、担い手となる体制を目指す。
- 専門部会と地域住民等の参加により、テーマに基づく歴史文化資源を自ら発掘する「まちあるき」を開催し、参加者の意識を高めるとともに、担い手育成に向けた実験的な試みとしている。

■たかさご万灯祭



■曾根まちあるき

テーマを手がかりに、曾根地区の歴史文化資源を参加者自らが発見するまちあるきを実施



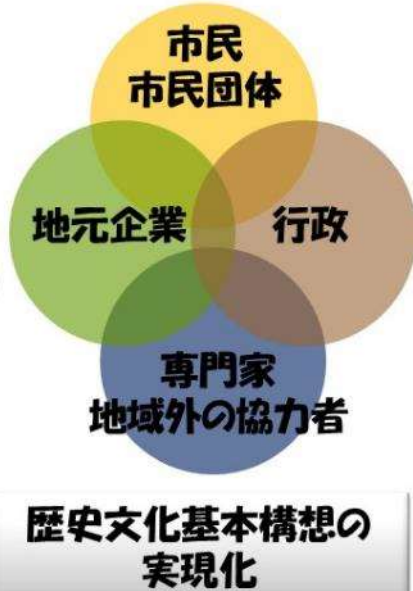
このまちの特徴は
どんなところだろう？



いつもなら見逃しそうなどころも
じっくり見てみよう！

【地元団体】

ひょうごページ機構H20東播、高砂歴史ガイドクラブ、曾根のまち探友会、荒井ふるさと再発見隊、たうんトレイル伊保



「ふるさとのお宝」を見つけ出そう まちづくりに活かそう

歴史文化資源の存在や価値を知ることは、高砂市のこれまでの歩みを振り返り、これからの進む道を考える重要な手がかりになります。歴史文化資源は、今後、高砂市が歴史文化に裏打ちされたまちづくりを進めていくにあたって、重要なまちづくり資源として活用できるでしょう。

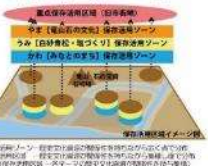
ひとづくり
知る
つなげる
活かす
知らせる



まちづくり
地域の魅力向上
誇りの醸成
地域活性化
高砂を「第二のふるさと」
に感じてもらう



保存活用区域イメージ図



市民・市民団体・企業の皆さんと高砂市の協働を通して構想を実現

歴史文化基本構想の担い手は、市民、市民団体、企業、行政です。いずれが欠けてもうまくいきません。それぞれが連携して取り組むことで実りを得ることができます。

すでに進められている、あなとのまちや龍山石に関する活動と連携・協力しながら、新しい動きを生みだし、発展させることで、強力な推進体制が生まれ、実現できると期待されます。



高砂市歴史文化基本構想

～歴史文化を活かしたまちづくりをめざして～

<概要版>

高砂市

高砂市歴史文化基本構想とは？

高砂市の歴史文化をむもとき、高砂市の個性や魅力を形成している歴史文化の流れを再確認し、それを将来に受け継ぎ活かしていくための考え方や方法をまとめたものです。歴史文化といっても過去を振り返るだけのものではなく、これから掘み出されていく、将来の高砂の文化をどうしていくかを考える構想です。



連携し、ゆるぎなく進めるための協働体制が求められる強力な推進体制

わたしたち高砂市が歩んできた豊かな歴史文化の歩みを知ろう

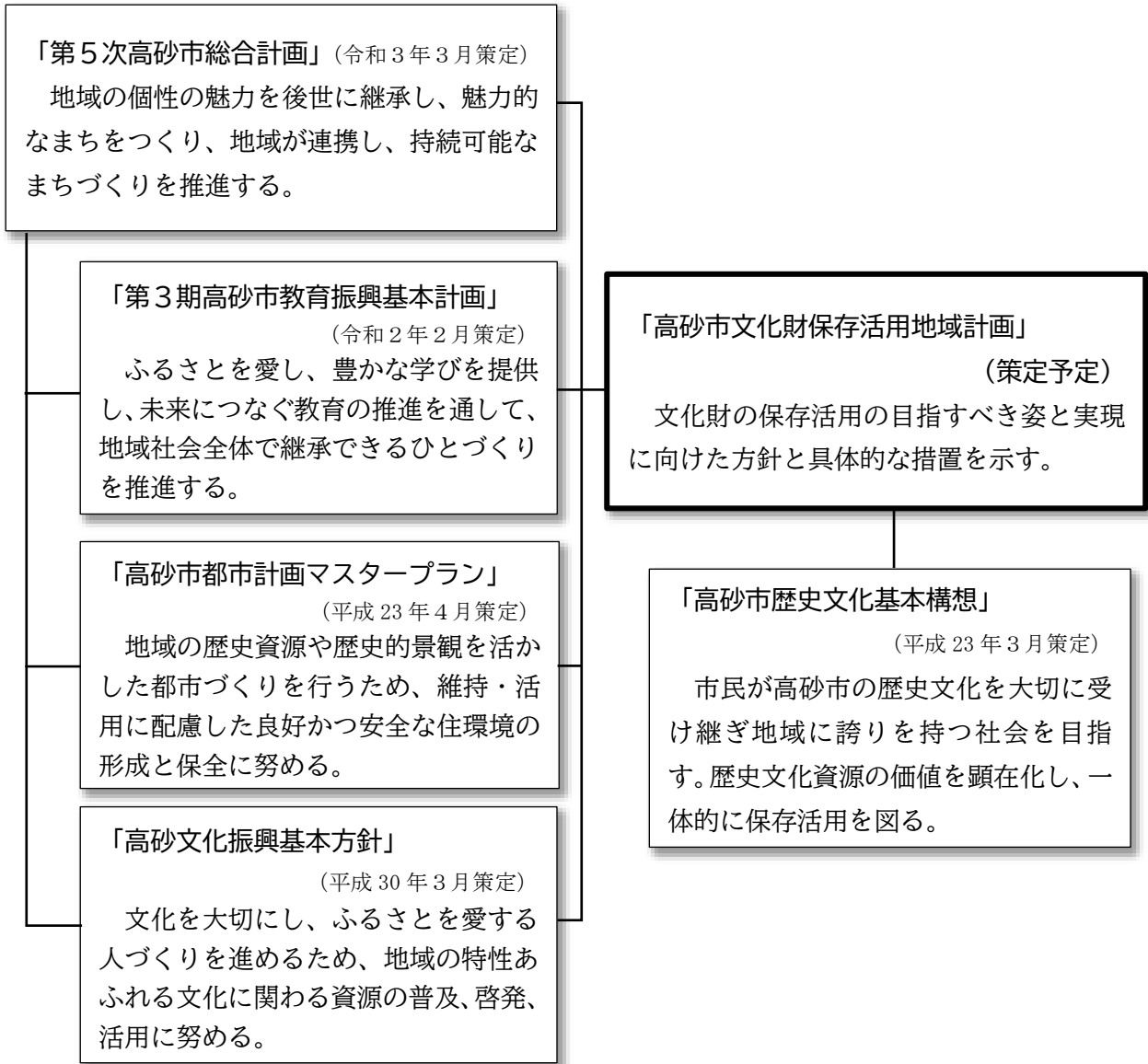
高砂市は、竜山（やま）、播磨灘（うみ）、加古川など（かわ）といった自然や地勢に恵まれ、これらを活かした豊かな歴史文化が育まれてきました。また、地形や環境の変化にあわせて、人々の生活を営んできました。現在でも、こうした歴史文化を象徴する多くの資源を見いだすことができます。



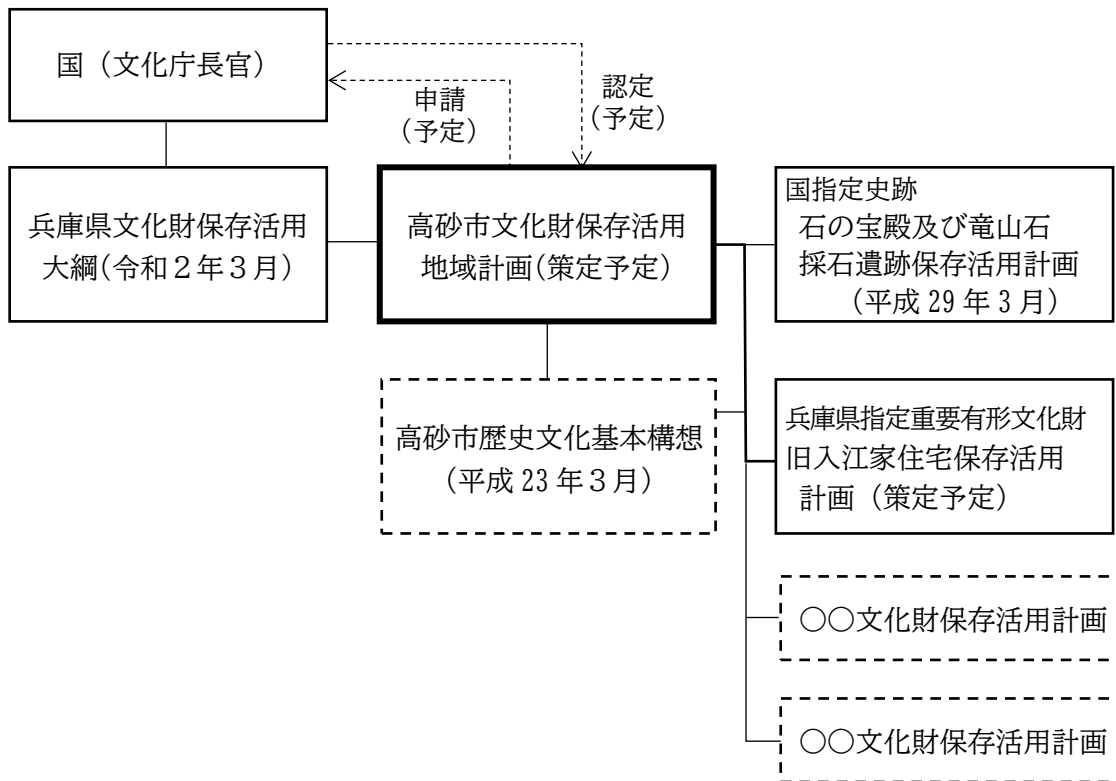
5. 高砂市文化財保存活用地域計画の作成に向けて

(1) 行政計画における位置づけ

<上位・関連計画と位置づけ>



<文化財保護体系における本計画の位置づけ>



(2) 地域計画を作成するにあたっての作業内容

① 歴史文化基本構想の再確認と見直し ⇒ 令和4年度

- 市の概要
- 文化財の概要・歴史文化の特徴
- 文化財の保存・活用に関する課題と方針
- 文化財を把握するための調査
- 文化財の保存・活用の推進体制
- 関連文化財群
- 文化財保存活用区域

② 新たな項目を作成 ⇒ 令和5・6年度

- 文化財の保存・活用に関する措置
- 計画期間の設定
- 事務処理特例
- その他の事項

③ 必要な文化財調査等を実施 ⇒ 令和5年度

- 建造物・まちなみの再調査（歴史文化基本構想策定後の変遷）
- 市民意向調査
- 文化財一覧等の整理

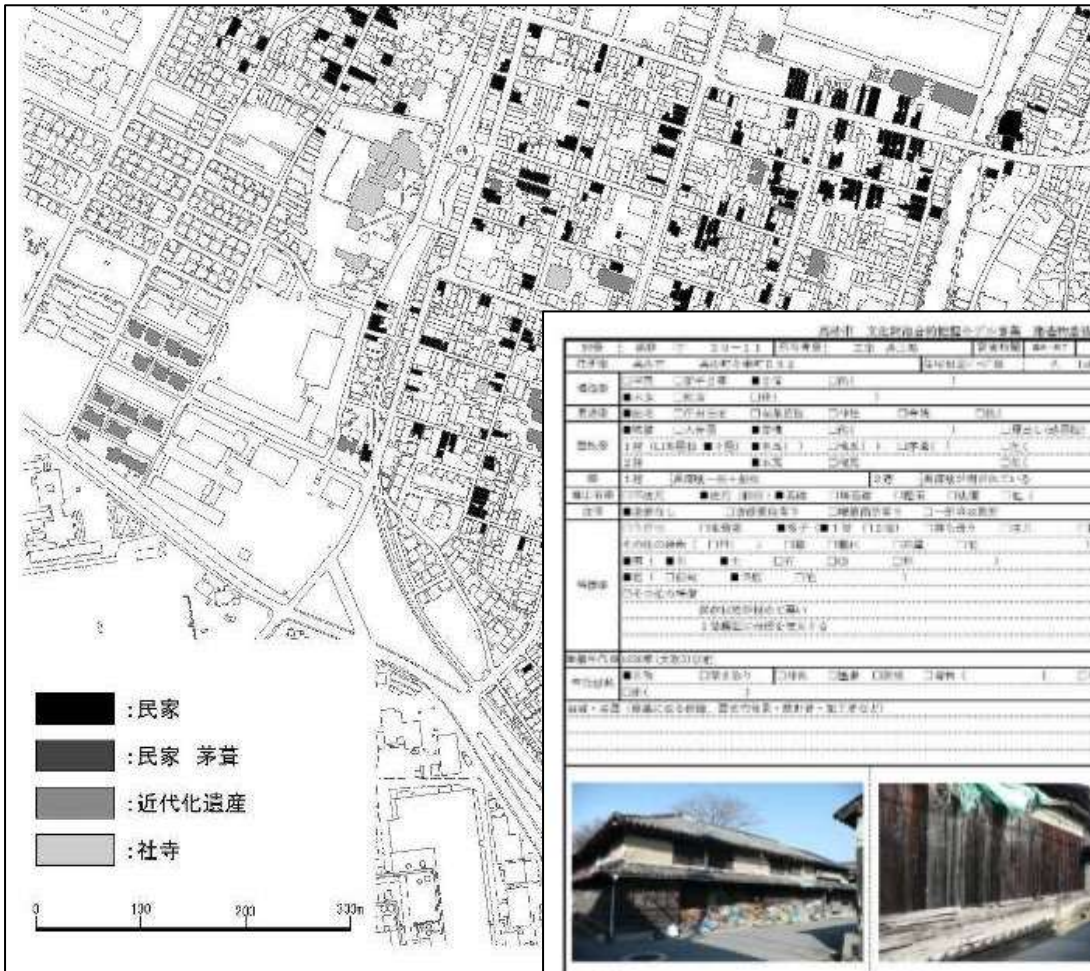
【文化財保存活用地域計画の記載事項】

必須事項	当該市町村の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の位置や地形、気候などの自然的・地理的環境 ・産業や土地利用、人口動態などの社会的状況 ・歴史や関わりのある人物、人々の伝統的な営み等の歴史的背景など
	当該市町村の文化財の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・主な文化財の概要や特徴 (歴史的・地理的な分布状況や域内の文化財に多く見られる類型・様式などの特徴) ・文化財リスト (過去の調査等により把握している域内の文化財を記載したもの)
	当該市町村の歴史文化の特徴	当該市町村に固有の歴史や文化にまつわる地域的な特色の概要 (記載にあたっては、当該市町村の概要と当該市町村の文化財の概要を踏まえ、総合的に地域の特徴を捉える視点が必要)
	文化財の保存・活用に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> ・未指定を含む文化財の滅失・散逸や担い手の減少の状況 ・適切な周期での修理が実施できていない域内の文化財の状況 ・文化財を継承する技術・材料等の確保・生産体制の現状など、当該市町村が直面する課題や問題意識
	文化財の保存・活用に関する方針	歴史文化の特徴及び保存・活用に関する課題を踏まえ、当該市町村として目指すべき方向性や将来像、域内の文化財の保存・活用に関する取組の方針
	文化財の保存・活用に関する措置	<p>保存・活用に関する方針を踏まえ、計画期間中に行う事業や関係法令(都市計画法、景観法等)上の措置など取組の具体的な内容について、実施時期を可能な限り明確にした上で記載</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の指定等、修理、整備 ・防犯・防災対策、災害発生時の対応 ・文化財に関する情報発信、普及啓発、人材育成 ・原材料の確保、修理技術等の継承に関する取組 ・支援団体など民間と連携した取組 ・条例等に基づく当該市町村独自の取組 等
	文化財を把握するための調査に関する事項	域内の文化財を総合的に把握するため、これまでの調査の実施状況を踏まえ、調査が未実施の文化財類型や地域、今後の調査の実施の方針・具体的な計画などを記載 (文化財リストについては第1号関係参照)
	計画期間	当該市町村の総合計画等の計画期間との整合性や地域の実情を踏まえつつ、概ね5年～10年程度の期間を設定
	文化財の保存・活用の推進体制	<p>地域計画を実施していくため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の文化財担当部局や関係部局 ・域内に所在する博物館等の関係機関における職員・専門的人材の配置状況 ・地方文化財保護審議会の設置状況や文化財保護指導委員の配置状況 ・文化財保存活用支援団体の指定状況などの現状 ・今後の体制整備の方針 <p>などについて記載</p> <p>また、必要に応じて、都道府県や域外の関係機関との連携・協力体制の構築状況等について記載【詳細は文部科学省令で定めることとしており別途検討】</p>

任意事項	関連文化財群に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・設定の考え方や名称、解説（テーマ・ストーリー）、構成文化財のリスト、地図、その保存・活用の方針や講ずる措置の内容 ・日本遺産の認定を文化庁から受けている場合には、その内容
	文化財保存活用区域に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・区域設定の考え方や名称、地図、区域に含まれる文化財のリスト、その保存・活用の方針や講ずる措置の内容 ・地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（平成 20 年法律第 39 号。通称「歴史まちづくり法」）に基づく歴史的風致維持向上計画が定められている場合には、当該計画に定められた重点区域の内容
	事務処理特例	「地域計画の認定を受けた場合の事務処理特例の適用を希望する事務の内容」には、地域計画の認定を受けた場合の事務処理の特例（法第 184 条の 2）の適用を希望する場合に、当該市町村において実施を希望する事務の内容について記載
	その他の事項	世界遺産や無形文化遺産など条例等に基づく枠組みに位置付けられる文化財等に関する取組の方針や講ずる措置の内容等

高砂市古民家調査対象一覧

NO	番地	所在地	名称	建築種別	建築年代	階数	屋根形式	屋根材料	
1001	1	高砂町低田町414-1	住宅	町屋	昭和12年頃	2階	切妻	桧瓦	2階櫓
1002	2	高砂町善人町408	住宅	町屋	昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階窓
1003	3	高砂町善人町1821	住宅	長屋	昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階窓
1004	4	高砂町善人町1819	住宅	町屋	昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階窓
1005	5	高砂町善人町1809-1	住宅	町屋	昭和初期	2階	入母屋	桧瓦	うだつ
1006	6	高砂町善人町	住宅	長屋	大正期～昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階出
1007	7	高砂町善人町1854	住宅	町屋	大正期～昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階出
1008	8	高砂町善人町1855	住宅	町屋	昭和3年	2階	切妻	桧瓦	
1009	9	高砂町善人町1859	住宅	町屋	大正期～昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階出
1010	10	高砂町善人町1872	末広湯	蒸湯	昭和31年	2階	切妻	桧瓦	
1011	11	高砂町善人町1875	住宅	町屋	大正期～昭和初期	2階	切妻	桧瓦	うだつ
1012	12	高砂町善人町1859	住宅	町屋	大正期～昭和初期	2階	切妻	菱刈瓦	うだつ
1013	13	高砂町善人町1821	住宅	町屋	昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階窓
1014	14	高砂町善人町1855-4	住宅	町屋	昭和初期	2階	切妻	桧瓦	1階窓
1015	15	高砂町善人町1852	住宅	町屋	明治期	厨子2階	切妻	桧瓦	
1016	16	高砂町善人町110-1	住宅	町屋	明治末期～大正期	厨子2階	切妻	本瓦	1階窓
1017	17	高砂町善人町110-1	住宅	蔵	明治末期～大正期	厨子2階	切妻	桧瓦	



高砂市 近代化遺産の調査と記録 建造物調査記録表 - 1015号

住所	高砂市 善人町110-1	調査対象	2階 蔵	調査時期	2009年 11月
建物名	高砂町善人町110-1	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査者	高砂市文化財課	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査日	2009年11月11日	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査時間	10時～12時	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査場所	高砂市善人町110-1	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査内容	外観・内観・構造・材料・色調・形状・寸法・用途・歴史・写真・スケッチ・図面・その他	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査結果	蔵	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査写真	外観・内観・構造・材料・色調・形状・寸法・用途・歴史・写真・スケッチ・図面・その他	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査スケッチ	外観・内観・構造・材料・色調・形状・寸法・用途・歴史・写真・スケッチ・図面・その他	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査図面	外観・内観・構造・材料・色調・形状・寸法・用途・歴史・写真・スケッチ・図面・その他	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月
調査その他	外観・内観・構造・材料・色調・形状・寸法・用途・歴史・写真・スケッチ・図面・その他	調査対象	蔵	調査時期	2009年 11月

写真1

写真2

写真3

写真4

【市民意向調査】 平成 21 年度実施

市民アンケートの結果報告

1. 実施したアンケート

①方灯祭り 街頭アンケート（平成 21 年 9 月 26 日、27 日）
 ②あらい浜風公園フェア 街頭アンケート（平成 21 年 11 月 3 日）
 ③旧入江家住宅表層保存修理工事現場見学会（平成 21 年 11 月 8 日）

方灯祭 街頭アンケート結果
「竜山石について知っていますか」

日 時：平成 21 年 9 月 26 日（土）、27 日（日） 18:00～21:00
 場 所：花井家住宅 回答者：約 150 名（未回答は約 900 名）

26 日	0～29 代	30～59 代	60 代～	合計
竜山石を知っていましたか？				
知っていた	4(0)	29(4)	29(3)	63(7)
知らなかった	6(1)	5(0)	2(0)	13(2)
竜山石に関心をもちましたか？				
関心を持った	7(1)	33(7)	21(2)	61(8)
関心を持たなかった	2(0)	7(2)	8(1)	17(2)

27 日	0～29 代	30～59 代	60 代～	合計
竜山石を知っていましたか？				
知っていた	9(0)	13(2)	19(0)	41(2)
知らなかった	2(0)	11(0)	6(2)	19(0)
竜山石に関心をもちましたか？				
関心を持った	9(0)	20(2)	15(0)	44(2)
関心を持たなかった	9(0)	4(0)	6(2)	19(0)

あらい浜風公園フェア 街頭アンケート結果
「荒井廬、菅根塩田について知っていますか」

日 時：平成 21 年 11 月 3 日（火・祝） 昼間
 場 所：あらい浜風公園

	0～20 代	30～50 代	60 代～	合計
荒井廬や菅根塩田を知っていましたか？				
知っていた	0 (0)	9 (0)	7 (1)	16 (1)
知らなかった	0 (0)	2 (1)	0 (0)	2 (1)
展示などを見て、您に関心をもちましたか？您的歴史を受け継ぐべきだと思いますか				
関心を持った	0 (0)	8 (0)	7 (0)	15 (0)
受け継ぐべき				
関心はない	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
受け継ぐ必要はない				

塩のどんなところに関心をもちましたか？
 こんなところに塩田があったとは知らなかったため驚いた
 高砂で塩をつくっていたことを知らなかった、こどもの学習で知った
 向島公園や海水浴は知っていた
 塩田といえは大多のイメージ
 手作業でつくった塩があったこと（寺はイオン式）
 容れ物が並ぶと知らなかった
 まちづくりに活かそうとしているところ
 塩の利用（なめし皮に使っている）
 塩づくりは大変だと驚かされていた
 塩を大事に使うこと

文化財総合的把握モデル事業 ～文化財調査報告会～
 高砂まちあるき in 菅根 の開催報告

日 時：平成 22 年 2 月 14 日（日） 10:00～16:00
 会 場：高砂市教育センター集会所
 参加者：一般 19 名
 市関係 4 名（専門委員、ひょうごヘリテージ）
 それのまち探検会、マヌ都市

1. まちあるきの概要
 (1) 目的

- 高砂の歴史文化遺産の価値、魅力を市民に伝える
- 身近な歴史文化資源を発見する楽しさを体験し活動の契機とする（まちあるき）
- 市民目線による「文化財」の類型の発掘と共有
- プレイベントとして、次年度のまちあるき等のまちあるきイベントにつなげる

(2) 当日の次第

第1部：展示と映像による事業、歴史資源の紹介など
 第2部：事業の説明および先生方による高砂市の景観、石造物、建築物やまちあるきの報告
 第3部：まちあるきワークショップ

2. まちあるきのみとめ

	【発見されたお宝について】	【各参加者の当日の様子など】
建物	<ul style="list-style-type: none"> <昔から残っているもの> <ul style="list-style-type: none"> ・民家、蔵、塀など <使われ方が変わったもの> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂屋、醤油屋、漬り酒屋など <建物の痕跡が残っているもの> <ul style="list-style-type: none"> ・地神さん、井戸跡など 	<ul style="list-style-type: none"> 一部だけ現存する資源を手がかりに昔の使い方やまちの様子を説明したり、予測する場面がみられた。 子どもの頃の思い出ある建物への賞賛 往時の白砂青松を物語る松の景観を残したいという意向 舟板を再利用した外壁の張り方、神社の卯比方の違いなど、市民目線で他地区と比較して、菅根ならではの特徴ではないかという指摘があった。 地域に多く使用されている竜山石だけでなく、一部残るレンガ壁に興味（レンガ工場もあったそう）を示していた。 参加者自身が通りがかりの住民や、お寺の住僧へ聞き取りを行う積極的な様子もみられた
道	<ul style="list-style-type: none"> <建物の造形、使われ方> <ul style="list-style-type: none"> ・格子、虫籠窓、筒瓦の形など ・舟板の張り方（屋根は海、高砂は横） <使われている材料> <ul style="list-style-type: none"> ・竜山石（基礎、延べ石など） ・舟板の再利用（外壁） ・レンガ壁 ・茅葺（現在はトタンで被覆） <子どもの頃の思い出> <ul style="list-style-type: none"> ・昔よく利用した肉屋さん 	
寺院社	<ul style="list-style-type: none"> <道との関係> <ul style="list-style-type: none"> ・のこぎり道 <道と周辺景観> <ul style="list-style-type: none"> ・道の突き当たりにある建物 ・昔からの道と、道沿に残る竜山石の延べ石 <竜山石の利用> <ul style="list-style-type: none"> ・竜山石が使われている彫刻など <管根の根> <ul style="list-style-type: none"> ・のこぎり道の根 	

今後…

- 資源単体の発見を手がかりに、次のステップとして、まちの成り立ちや地誌的な特性との関係性も踏査することで、資源の価値の共有が、より図れるのではないかと
- 竜山石に関しては、多く使われていることや石材としての特徴を確認するだけでなく、高砂の生活・産業文化との関わりを踏査し、高砂ならではの資源である認識を深めたいと考えている

【歴史文化基本構想策定後の取り組み】

1-1 行政（教育） ー教育委員会ー

- 1) ふるさと文化財登録制度の創設と運用
- 2) 高砂市指定文化財に文化財案内板を設置
- 3) 国史跡石の宝殿及び竜山石採石遺跡の保存・活用と整備事業
- 4) 文化財建造物の整備と活用
- 5) ふるさと高砂学
- 6) 図書館名誉館長事業の展開

1-2 行政（文化・市民活動） ー文化振興ー

- 1) 文化講座「高砂学」
- 2) 高砂市ふるさと文化財に案内板を設置

1-3 行政（まちづくり） ー都市整備ー

- 1) 高砂みなとまちづくり行動計画の実践
- 2) 高砂堀川周辺地区整備事業

2-1 行政と民間団体（シティプロモーション） ー観光振興ー

- 1) たかさご万灯祭
- 2) 一般社団法人高砂市観光交流ビューローの設立（平成28年）と活動展開
- 3) 日本遺産「北前船」の追加認定と交流事業
- 4) 工楽松右衛門旧宅

2-2 市民・民間団体を行政が支援

- 1) 市民提案型地域協働推進事業「夢の代」補助制度

3-1 市民・民間団体独自の活動

- 1) 市民団体による地域活動の展開
- 2) 古民家の活用

(3) 高砂市文化財保存活用地域計画の構成案

はじめに

1. 計画作成の背景・目的
2. 地域計画の位置づけ
3. 経緯と体制
4. 計画期間

第1章 高砂市の概要

1. 自然・地理的環境
2. 社会的状況
3. 歴史的背景

第2章 高砂市の文化財の概要

1. 文化財保護の歩み
2. 文化財類型ごとの一覧

第3章 高砂市の歴史文化の特徴

3. 歴史文化の特徴
4. 歴史文化のストーリー

第4章 保存・活用に関する取り組みと課題

1. 各主体ごとの取り組み
2. 保存・管理に係る取り組み
3. 活用に係る取り組み
4. 担い手に係る取り組み

第5章 歴史文化資源の保存・活用に関する方向性と措置

1. 保存・活用に関する現状と課題
2. 保存・活用に向けた基本理念
3. 保存・活用に関する基本方針
4. 保存・活用に関する措置

第6章 重点に区域における歴史文化資源の保存・活用

1. 重点区域の設定
2. 重点区域の保存活用計画

第7章 歴史文化資源の保存・活用の推進体制

1. 推進主体ごとの役割と体制
2. 主体間の連携体制
3. 保存・活用推進のための総合的な体制

参考資料

【参考】文化財保存活用地域計画構成案と歴史文化基本構想の対比表

高砂市文化財保存活用地域計画 構成案	高砂市歴史文化基本構想
はじめに	はじめに
1. 計画作成の背景・目的	1. 高砂市歴史文化基本構想について (1) 考え方の背景
2. 地域計画の位置づけ	1. (2) 計画の位置づけ
3. 経緯と体制	【巻末資料】歴史文化基本構想策定の実施体制と経過
4. 計画期間	1. (3) 構想の期間、見直し
第1章 高砂市の概要	2. 高砂市のあゆみ
1. 自然・地理的環境	2. (1) 高砂市の位置、地勢
2. 社会的状況	2. (2) 高砂市の歴史(通史)
3. 歴史的背景	2. (2) 高砂市の歴史(通史)
第2章 高砂市の文化財の概要	2. (3) 高砂市の歴史文化の特徴
1. 文化財保護の歩み	—
2. 文化財類型ごとの一覧	2. (3) 高砂市の歴史文化の特徴 ②文化財保護の現状
第3章 高砂市の歴史文化の特徴	4. 高砂市の歴史文化を見直す効果的な視点(テーマ)
3. 歴史文化の特徴	4. (1) 高砂市の歴史文化を見直すテーマと関連文化財群
4. 歴史文化のストーリー	4. (2) 4つのテーマからみた高砂市の歴史文化のストーリー
第4章 保存・活用に関する取り組みと課題	6. 関連文化財群の保存活用
1. 各主体ごとの取り組み	—
2. 保存・管理に係る取り組み	6. (1) 保存の基本的な考え方
3. 活用に係る取り組み	6. (2) 活用の基本的な考え方
4. 担い手に係る取り組み	—
第5章 歴史文化資源の保存・活用に関する方向性と措置	3. 高砂市歴史文化基本構想の基本方針
1. 保存・活用に関する現状と課題	—
2. 保存・活用に向けた基本理念	3. (1) 高砂市の将来目標像と歴史文化基本構想の基本理念
3. 保存・活用に関する基本方針	3. (2) 歴史文化基本構想の保存活用に向けた基本的方策
4. 保存・活用に関する措置	— (提言～高砂市歴史文化基本構想の実現に向けて～)
第6章 重点に区域における歴史文化資源の保存・活用	5. 関連文化財群の保存活用区域
1. 重点区域の設定	5. 関連文化財群の保存活用区域
2. 重点区域の保存活用計画	—
第7章 歴史文化資源の保存・活用の推進体制	7. 高砂市歴史文化基本構想の実現に向けた進め方
1. 推進主体ごとの役割と体制	7. (1) 基本的な考え方 (2) ひとづくり (3) まちづくり
2. 主体間の連携体制	—
3. 保存・活用推進のための総合的な体制	7. (4) 構想推進の体制づくり
参考資料	別冊『高砂市文化財総合的把握モデル事業 文化財調査報告書』